

桑苗簾伏方法  
 桑の樹を年々々々  
 伐り採り葉々々々  
 蚕と與へ其幹の  
 焚木に有用の桑の  
 再び有る其方法  
 樹と有る其方法  
 順序左の出と一



# 桑苗簾伏方法

上野國勢之郡原之鄉村  
 船津傳次平口授

熊谷縣藏板



扱畑の土をあひひふ二尺  
 五寸う三尺ぐろおけい、  
 層どてう称をほく利  
 切り先を二三寸土へさし  
 込あひと五分よま一吋  
 ぐろおづあまぐくも  
 きのぐろくなくべるあ  
 園の如し



先づ葉をとま  
 たる幹を  
 本のうへ  
 一尺七八寸を  
 糸の細きところを  
 きりまわしてさかり



中三寸ほどを

土をうけば

幹をあゝハ

下ハつちま

一三寸まじ

本のうた

一尺二三寸ハ

二寸ほど覆ひ

う祿あひの

空氣を

ふきかぬ

やうまじべ



幹の三寸ほど土をうけの

あゝあゝそれある所不

おみを覆ひ乾きをふせ

ぐるの園のごとくまじ

まじそれまじまじ

時水をやちほとま

一鉢におみをおろす

あつとまじ

但し右乗をふせるま

清明のころう芒種過

すをまじりせんも芒種

のせ川を當然とん



粟の芽三四寸  
 のびたころを  
 ぐらをかきよせ  
 芽のもともふ  
 大層おほいを用ひ  
 うねの土を  
 一二寸うきよせ  
 たびたび  
 水みづをよめ  
 圖のとおし

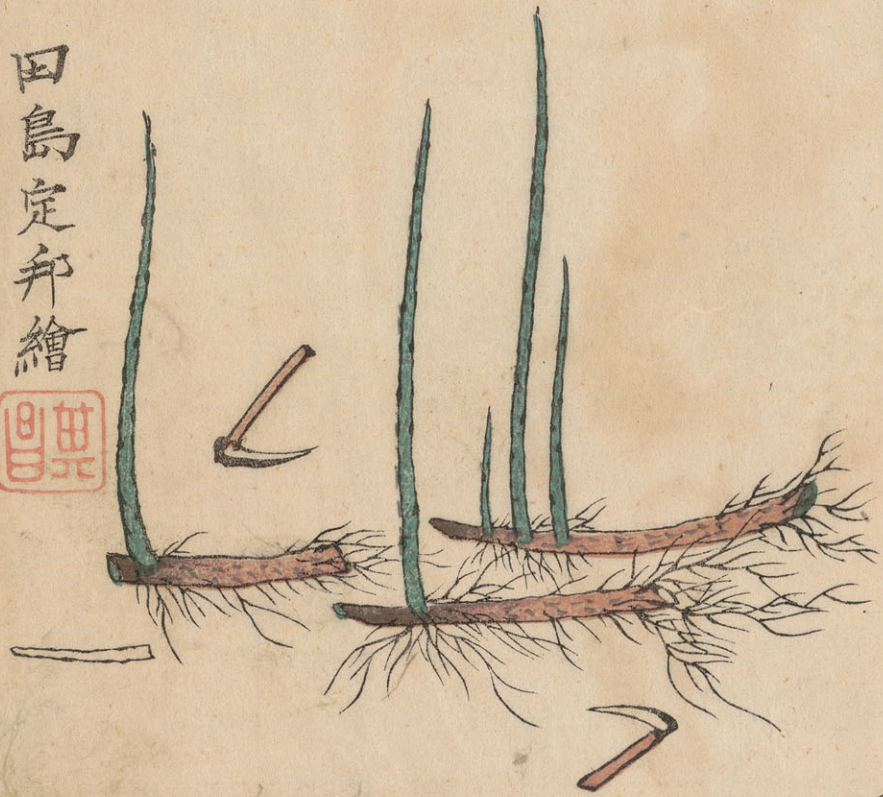


前まへのおとく  
 木きをふせ  
 了しまひよめ  
 廿五六日を  
 おとの間あひだより  
 三四寸の芽めを  
 出いしたる圖



翌年の春清明のころ  
 堀出し圖のおとくかれ  
 多し根を起し捨てる  
 苗木と多し畑まうつ  
 植るあり其中の小苗  
 木ハ別の地まうて一  
 年培ひそだせ次の春  
 本畑まう急つるもの  
 最よ

田島定邦繪



秋分のおるよ  
 各種を  
 圖のおとく  
 長きを五六尺  
 みどが二尺  
 四五寸よのび  
 枝葉志がる一



秋の  
 ころ  
 ぬれ  
 多し一本  
 のころ

右の繪と記と圖より順序を考へ心を  
盡してやいなま其妙を得べし

但し畑一畝は苗木千五六百本より  
三千本くらゐ海で出来るなり

上野國勢多郡原ノ鄉村

船津傳次平口授

人の身を守るは屋のめしを金とてせ  
屋の年欠屋のしを金とてせ  
その出るもまへもの雨あり本跡あり  
毛あり麻ありおろし  
和の圃のしを  
出さぬのしを種  
そのしを  
ちり記とるなり  
和は五人  
六

あゝあゝとゆふと暮らしてはかしの世に  
そとに繁きまゝとて居る。持てるの  
天り下ゝたゝるをわらふ人  
おほくは業をばたむ人  
その糸もまじくはなぬ糸  
さ枝とも枝をまじくはなぬ糸  
さしらぬ糸とて居る。持てる糸  
さしらぬ糸とて居る。持てる糸

あゝあゝとゆふと暮らしてはかしの世に  
そとに繁きまゝとて居る。持てるの  
天り下ゝたゝるをわらふ人  
おほくは業をばたむ人  
その糸もまじくはなぬ糸  
さ枝とも枝をまじくはなぬ糸  
さしらぬ糸とて居る。持てる糸  
さしらぬ糸とて居る。持てる糸





ふられりいあふいあふい 云々  
ていさふいあふいあふいあふい  
國の遠きあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい



かす種とくいのいはたけりあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい  
あふいあふいあふいあふいあふい



あふい

